

内容紹介

9本のうち5本がウクライナ関連です。「ロシア、断じて許すまじ」の主戦論が欧米・日本を席卷しています。しかし「血を流せと煽るのは、なにかおかしい」という声も広がってきているようです。

1. ルラ「なぜ各国は平和構築の支援をしないのか」

ルラ元ブラジル大統領は、この秋に予定される大統領選挙の最有力候補です。タイムズ紙とのインタビューで、ウクライナ問題について「悪いのはプーチンだけではない。なぜ各国は平和解決を支援しないのか」と見解をのべました。

2. フルシチェバ「ウクライナ侵攻の内幕とプーチン」

フルシチェバはフルシチョフのひ孫で、今はニューヨークで暮らしています。クレムリン内部の他ロシア国内に多くの人脈があり、それを通じてプーチンの権力構造を知悉しているとされます。

プーチンは頭のテッペンから足の爪先まで KGB であり、KGB システムを使ってソ連崩壊後の混乱からロシアを救い出した。その成功体験がウクライナでの冒険を誘発した。しかし KGB という秘密組織に頼ったために、事実からかけ離れた主観的認識に陥った、と語っています。

3. 環球時報「ウクライナは米軍産複合体の新たな稼ぎ先」

環球時報は、中国共産党系の国際情報誌。記事は、ウクライナ戦争の本質を米軍産複合体のマーケット拡大活動と見ています。

4. 米 PeoplesWorld「スウェーデン、フィンランドの NATO 加盟反対」

ピープルス・ワールドはアメリカ共産党の機関紙で、スウェーデン、フィンランドの NATO 加盟決定を批判しています。

5. CAP「ウクライナ紛争とビッグ・オイルのボロ儲け」

「アメリカ進歩センター（CAP）」は米国内 NGO で、トップ 5 社がコロナでボロ儲けした上に、ウクライナでまた溜め込むという悪辣な稼ぎを行っていることを告発しています。

6. EastAsiaForum「インドはミャンマーの軍事政権に慎重な対応」

オーストラリア国立大学に拠点をおく国際情報サイト「東アジアフォーラム」にのった民主派研究者の論考。ミャンマー民主化運動の困難さは、国境を接する周辺国が軍事独裁政権の支持国だという事情にもあります。

7. ニカラグア大使講演（要旨）

本稿は、在日ニカラグア共和国大使館及びキューバ研究室の主催した『アウグスト・セサル・サンディーノ将軍、生誕 127 周年記念オンライン講演会』における基調講演の要旨です。

最近のラテンアメリカにおける重要課題のひとつ、米国の牛耳る米州機構との決別課題にも触れられています。米州機構は米州相互援助条約（軍事同盟）と連動しており、NATO を考える上でも重要な話題です。

8. JACOBAN 「コロンビア大統領選_歴史的勝利が目前に」

コロンビア大統領選を目前にして、コロンビアの長い戦いの歴史を振り返り、勝利の歴史的意義を強調しています。

9. 大村哲 「解説_米・日のハイブリッド戦体制」

会員による投稿です。前号の記事の解説版です。オリジナルのスタイルをそのままにして掲載します。

10. 大西廣 「気になって仕方がないウクライナ報道」

会員による投稿です。ウクライナ報道の盲点について論及したものです。